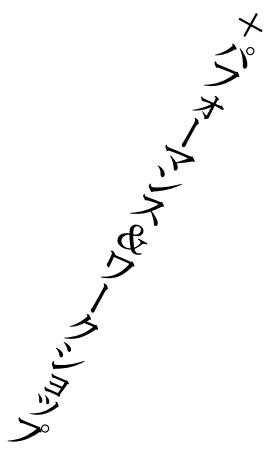


冬季セミナー

更新する耳

芸術と心理療法

空間・身体という枠と
エコーの心理学



2026.2.8 sun

会場

順天堂大学 **浦安キャンパス 医療看護学部
東京駅よりJR京葉線5駅の新浦安駅からバスで7分

時間

10:00-17:00 受付は9:30から

参加費

5,000円

予約

→QRコードや、四谷分析心理学クラブの
HPからお申込みください(要予約)。
一般の方も心理職の方も、どなたもご参加
いただけます。



心理療法においても、私たちは対話の言葉を聴くだけではなく、そこにある音を聞いています。改めて音や反響を聴くことに着目し、体験と思考を深めることは、心のスペースを広げ、クライアントや世界との関わりをより繊細で開かれたものへと育みます。

この度は、自らを音の場へと差出し、「きくこと」への誘いを創造し続け世界各国を回る鈴木昭男氏をお招きします。氏の演奏を聴き、さらに各々が身体や楽器でない物を遣いながら音に能動的に関わるワークショップを行います。後半には猪股剛氏がホフマンの音楽的短編小説『クレスペル顧問官』と心理臨床にまつわるレクチャーをおこなつていただきます(参考図書: E.T.A.ホフマン『砂男／クレスペル顧問官』光文社古典新訳文庫)。これらの体験を言葉にしつつ、皆でディスカッションする時間も設けます。

*当日、それぞれの方が音遊びをしてみたいと思われる、既存の楽器ではない《日用品や物》をご持参ください。

講師



鈴木昭男 (すずきあきお)

サウンド・アーティスト。1963年より自然界を相手に「なげかけ」と「たどり」を繰り返す「自修イベント」により、「きく」ことを探求。70年代よりエコー音器《アナラボス》などの創作楽器を制作し演奏活動を始める。ドクメンタ8、大英博物館、ザツキン美術館、ポン市立美術館、東京都現代美術館など、世界各地の美術展や音楽祭での展示や演奏多数。'88年に自修イベント「日向ぼっこの空間」を遂行。'96年から耳を澄ますプロジェクトの「点・音 “o to da te”」を継続している。



猪股剛 (いのまたつよし)

ユング派分析家、臨床心理士／公認心理師。帝塚山学院大学教授。精神科や学校臨床において実践に携わるとともに、アートやパフォーマンスの精神性や、現代の心理の深層を思索することを専門としている。著書に『ユング心理学のはじまりとおわりとこれから』(単著、日本評論社)、『遠野物語 遭遇と鎮魂』(共著、岩波書店)、『日本における「私」の姿』(編著、左右社)、訳書に『意識と無意識』(C.G.ユング著、創元社)、『仏教的心理学と西洋的心理学』(W.ギーゲリヒ著、創元社)などがある。

企画 植田静 (うえだしづか)

臨床心理士・公認心理師。子ども医療センターにてさまざまな小児臨床に携わる。心理療法とは何か』(共著、左右社)などの著書がある。ソロやユニットで音楽活動もしており、2023年ソロアルバム『a small sun』を発表。

**注意！会場が「日の出キャンパス」から、「浦安キャンパス」に変更となりました。